

意見書（要旨）

今回の件は、そもそも法廷で争われるべきものを数の支配下にある議会に持ち込んだことが間違いであった。議長は公平中立であるべきなのに、今回は自分が所属する会派の請求だけを受けて、被請求人である私の言い分は一度も聞かぬまま、両者間を調整する努力さえも怠り、いきなり議会運営委員会で政治倫理審査会の設置を宣言した。また、議会運営委員会で委員長が、「弁護士に相談すると明らかに名誉毀損である」と発言したことは明らかに法的な事実誤認であるとともに、恣意的に政治倫理審査会設置ありきの議決へと誘導したものと考える。

審査員の構成も、最大会派が過半数を超えていた。審査会は全5回とも、他議員の傍聴も許さず、一切の議事録も残さないという密室で行われたことも、過去に例のない不公平であった。

結局、こうした一連の不正不公正な環境下で進められた審査の結果には、私も県民も強い疑念を持たざるを得ない。審議内容も、法律を無視し、何の定義や基準も持たないままに密室の中で感覚的に名誉棄損と決めつけ措置までした。この定義も基準もなく感覚的に「名誉毀損」とした先例は、これからの全議員の発言や文章表現に強い牽制を加えて言論を萎縮させ、引いては議員間の健全な議論や批判を抑圧することになり、言論の府として悪しき先例をつくった点で長く問題が残る。私の名誉は既に不当に傷つけられ、むしろ私の方が名誉棄損された被害者

私が本広報誌で指摘した「政務活動費の不公正受給問題」は、福井県議会議員も数多く報道された問題である。だからこそ県議会議員はそれぞれ襟を正し、政務活動費について積極的に情報公開するべき問題である。にもかかわらず、この事実を指摘した私の広報誌だけについて、今回「政務活動費の受給は不正ではない」との理由で措置することは、いわゆる「臭い物に蓋をする」ことを県民に想像させ、県民を失望させ、求められる県議会議員としての姿勢とは大きく矛盾するものである。その一方で、政務活動費の不公正支出問題により県議会の信用を傷付けたと思えるような者に対しては、「作為的な不正受給はなかった」として政治倫理上は一切不問として擁護し、県民に対して明確な説明責任も果たさず、客観的調査も実施しない現状は、「身内に甘い体質」を浮き彫りにしており、甚だ不公平であるとともに県民の信頼に恥ておらず、これも県民の代表者として問題である。

数の力によって白を黒にし、黒を白にするような無理がまかり通り、道理が引込まぬような議会となってしまったならば、やがて腐敗と恐怖政治への道を辿りかねず、強く警鐘を鳴らすものである。

このように県民感覚から乖離した現在の議会の状態や、今回の一連の手続き、審査方法、審査結果など様々な問題点については、「公正公平で透明性のある開かれた議会」を目指して決議された「福井県議会基本条例」の精神に逆行するものであり、県民不在の密室の中で出された結論には到底納得することはできない。

以上のことから、「福井県議会基本条例」に則った、議長の調整努力、一日も早い議会の正常化、公正公平な環境下での審査のやり直し、および私の名誉の回復を求める。

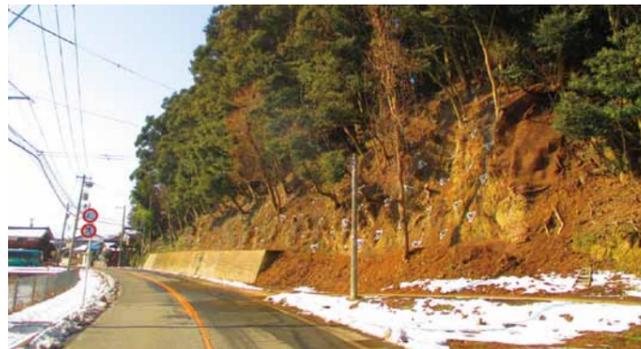
平成29年1月31日
福井県議会議員 笹岡一彦

地域の要望に応えた仕事

地域のご要望にお応えして、国道305号線の牛山方面から二面、舟津へと続く坂道を拡幅しております。生活道路、通勤通学道路として交通量の多い道で、深いカーブの部分では接触事故や衝突事故が多発しておりました。そこで、私から県土木部ならびに三国土木事務所に、拡幅工事を要望し、平成26年度に調査費、27年度に設計費、28年度に工事費を獲得して、現在工事中であり、年度内に完成予定となっております。また、道路への落石や倒木の危険がありました県道水口-牛ノ谷線の高塚春日神社の法面工事も、この程写真のように完成したことを合わせてご報告させていただきます。



▲国道305号線の拡幅(二面～舟津)



▲県道水口-牛ノ谷線の高塚春日神社の法面工事

facebook <http://www.facebook.com/kazuhiko.sasaoka>

twitter https://twitter.com/#!/k_sasaoka

笹岡一彦ブログ



GO! FORWARD

発行日 平成29年2月28日

発行者 笹岡一彦 福井県あわら市春宮一丁目5-14
TEL&FAX 0776-73-7105
www.sasaokakazuhiko.net

笹岡一彦ブログ



笹岡一彦 県議会報告 平成29年 冬号

私が初当選以来、14年間にわたって創設を訴え続けてきた「原子力レスキュー隊」が、ついに本県に日本初で実現。県民・国民の“安心安全”を守る心強い拠点と組織が誕生！

昨年の12月17日、私が県議会議員に初当選以来、原子力事故に備えて絶対に必要だと全9回もの質問と提言をしながら訴え続けてきた「原子力レスキュー隊（原子力緊急事態支援センター）」がついに福井県美浜町に実現しました。

私は、地震やテロなどから起こる原発の重大事故の可能性を早くから予測し、その事故を最小限に鎮圧でき、尚且つ放射線の中でも人命救助できる専門組織である「原子力レスキュー隊」（国際レスキュー隊）の創設を、幾度もの質問や提言を通して、県や国に対して強く求め続けてまいりました。

はじめは原子力発電所の安全神話により、福井県からの「原子力レスキュー隊創設の要望」に対して、国も真剣な対応をしてくれませんでした。2011年3月11日に東日本大震災が発生し、同時に福島第一原発事故が発生して以降、国は漸くその創設の必要性を痛感し、「原子力レスキュー隊の創設」をIAEA（国際原子力機関）に国際公約として約束し、ついに今回、本県に日本初の全原発17サイトの事故災害をカバーする原子力レスキュー隊「原子力緊急事態支援センター」が誕生しました。

残念ながら私が求めてきた国立という形では未だなく、電気事業連合会が出資し、日本原電が運営するという形でのスタートとなりましたが、長年の粘り強い訴えが、一つの実を結んだことは大変喜ばしいことであり、今後の国立組織への格上げや、その先にある国際連合への移譲への確かな原型ができたことは、世界人類にとって将来必要な地球規模の防災ネットワークのあるべき方向性を示すこととなり、国民、県民にも大きな安心安全をもたらす意義深いことであります。

これを機に、私は繰り返し重ねた大きな9つの質問と、それに対する西川知事や県幹部の答弁を集めた記録をまとめ、小冊子にしました。

この原子力レスキュー隊を原型にした世界8拠点を有する「国際レスキュー隊」という目標は、壮大な構想であるため、個人の生命や能力の限界を遥かに超えており、今後は賛同してくれる同志を集めた組織をつくり、世代と国境を越えてこの夢を実現させたいと考えております。

その手始めとして、同じく国際レスキュー隊の実現を目指しているレスキューロボット開発の第一人者の松野文俊京都大学教授と連携して、同志的協力をしていくことを申し合わせました。

原発事故対応拠点が始動 美浜にレスキューセンター



ロボや要員 24時間全国へ

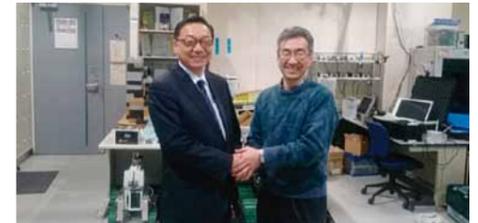
福井県美浜町に設置された「原子力緊急事態支援センター」が12月17日、正式に稼働を開始した。このセンターは、原子力事故発生時に、迅速な対応を行うための拠点として、県民の安心安全を守る役割を担う。また、ロボットや要員を24時間全国へ展開させるための拠点としても機能する。

このセンターは、原子力事故発生時に、迅速な対応を行うための拠点として、県民の安心安全を守る役割を担う。また、ロボットや要員を24時間全国へ展開させるための拠点としても機能する。

▲原子力レスキュー隊の誕生を報じる記事



▲レスキュー隊員コートを着用して実現を喜ぶ私



▲国際レスキュー隊を目指す同志である松野京大教授と

